

平成 30 年 5 月 23 日現在

機関番号：34309

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25284138

研究課題名(和文)キリスト教信者コミュニティからみた近代中国沿海諸地域の横断的研究

研究課題名(英文)A cross-field study of coastal areas from the perspectives of the Christian communities in modern China

研究代表者

蒲 豊彦 (KABA, Toyohiko)

京都橘大学・国際英語学部・教授

研究者番号：30233919

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、近代中国におけるキリスト教の展開という視点から横断的地域史研究を行った。時期としては19世紀中葉から20世紀初頭ごろまでを対象とし、中国沿海部の4地区(北京・天津地区、江南デルタ地区、福建から広東にいたる南部沿海地区、広州・香港の珠江デルタ)を選定した。アメリカや香港などからも研究者を招いてシンポジウムを開催して意見を交換し、キリスト教の視点が地域史研究にきわめて有効であることをあらためて確認することができた。

研究成果の概要(英文)：In this research, we have conducted cross-field studies of Chinese coastal areas through the lens of the historical development of Christian movements in modern China. The temporal focus is on the period from the middle of the 19th century to the early 20th century, and the spatial analysis covers four coastal regions, namely 1) Beijing and Tianjin; 2) the Jiangnan Delta; 3) the maritime coast of Fujian and Guangdong provinces; 4) the Pearl River Delta between Guangzhou and Hong Kong. We held a joint research seminar by bringing historians from the U.S.A. and Hong Kong to exchange ideas, dialogue, and this project confirmed again the relevance of a Christian perspective in the field of Chinese area studies.

研究分野：近代中国農村史

キーワード：中国近代史 地域史 キリスト教史

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、地域史研究とキリスト教史研究の両分野にまたがるものとなる。

(1)地域史分野は、都市を中心としつつ、1990年代以降、急速に研究が蓄積されている。ただし、研究成果が個別のまま放置され、扱うテーマも史料も方法も多種多様で、統一的理解が困難となっている。

(2)キリスト教研究といえば、かつてはミッション研究、つまり布教の進み具合を宣教師の立場から描くものか、もしくは信者と地域住民との衝突、いわゆる教案の研究が主流だった。それにたいして1980年代ごろから、中国人信者自体の動向が研究者の視野に入り、さらには、地域史の側にさらに大きく踏みこんだ研究が現れた。だがここでも、このようにして深められた各地域、もしくはキリスト教関係の各分野の歴史を今後どのように整理するのかという大問題が、放置されたままになっている。

### 2. 研究の目的

本研究は、キリスト教信者コミュニティの動向およびその周辺事象を分析の基軸に据えることによって、それぞれに大きく異なる歴史的背景と地域的特性をもつ中国沿海の諸地区を、共通の基準から比較しつつ統一かつ総合的に理解しようとするものである。長江流域から四川にいたる内陸部については、歴史的地理的背景が大きく異なるため本研究ではひとまず除外する。

扱う地域は北から順に、北京・天津地区、上海を中心とする江南デルタ地区、福建省の福州から広東省の汕頭にいたる南部沿海地区、広州・香港とその周辺、の4区とする。研究対象時期は、近代にいたってキリスト教がふたたび流入しはじめる19世紀中葉から、それがひとまず定着する20世紀初頭までを中心としつつ、一部は1980年代の改革開放以降に及ぶ。

### 3. 研究の方法

本研究は、扱う地域が広範囲に及ぶため、複数の研究者による共同研究体制が不可欠である。参加予定の研究者は、いずれも個別的な地域を各自のフィールドとして、すでにこれまで研究を積み上げてきている。そこでさしあたっては、そうした個々の研究をさらに継続、進展させつつ、これまでおもに地域史研究に従事してきた者はキリスト教方面へ、またキリスト教を扱ってきた者は地域史方面へ、それぞれ研究を少し移動させてゆく。ただし、研究があまりに分散するのを防ぐため、キリスト教コミュニティと地域社会の関係性にとくに焦点をあてたい。

こうして個別研究を進めながら、分担者の情報交換を密にして、相互に比較可能な接点をできるだけ多く取り出し、最終段階として、そうした接点をできるだけ生かしつつ、信者コミュニティの観点から沿海地区の歴史

を比較、検討できるようにすることをめざす。

### 4. 研究成果

本研究は、分担者と協力者あわせて8名の体制でおおよその担当地域を決め、ふたつのレベルに分けて進めた。各人がそれぞれの担当地域にかんして各人の責任で行う研究と、全員が共同で進める具体的な作業とである。前者にかんしては、各担当者のさまざまな論文や学会報告が研究の実績となる。

(1)まず各メンバーの個別の研究で特筆すべきは、本研究期間内に、つぎのように学術書の刊行が相継いだことである。倉田明子『中国近代開港場とキリスト教』(2014年)、戸部健『近代天津の「社会教育」-教育と宣伝のあいだ-』(2015年)、山本真『近現代中国における社会と国家-福建省での革命、行政の制度化、戦時動員』(2016年)、土肥歩『華南中国の近代とキリスト教』(2017年)。これらによって、各地域にたいする理解が深められたのみならず、とりわけ倉田と土肥は、地域とキリスト教との関係を書籍全体のテーマとしており、科研費による本研究の目的に沿うものとなった。

(2)共同で進めた作業としては、『歴史評論』特集「キリスト教と近代中国地域社会史」(2014年)をメンバー全員で分担、執筆した。これは、各地域におけるキリスト教史研究の最新の動向を整理したものであり、研究の現状を広く学界に知らせることができたと思われる。また2016年7月には、海外から研究者を3名招いて国際シンポジウムを開催し、近代中国における地域とキリスト教のかかりについて議論を行い、『報告書 国際シンポジウム「中国のキリスト教と地域社会」」(2018年)を刊行した。報告で扱われたテーマは、南部沿海部の広東、中部沿海部の浙江、中国東北部、そして新中国建国時の全般的状況など、科研費による本研究がカバーすべき地域を横断的に比較できるものであった。

この他に、本来の計画にはなかったTimothy Richard, *Forty-Five Years in China* (1916)の翻訳を、共同で完了した。著者のティモシー・リチャードは清末期の中国で布教を行った宣教師だが、飢饉救済や翻訳書による啓蒙活動、中国高官との交際など、多彩な活動を展開しており、本書は宣教師の動きのみならず、当時の中国社会を知るうえできわめて有益である。今後、本翻訳の出版にむけた作業をさらに進める。

(3)本研究の最終的な目的は、個別地域の研究を深めつつ、他方で、それらを統合し比較することによって、各地域の特徴を明瞭にするとともに、キリスト教信者コミュニティから見た近現代中国の特質を探ることにある。この最終目的にかんする成果の具体例として、研究代表者である蒲豊彦のものをふた

つ紹介したい。

a. 蒲豊彦「宣教師が見た一九世紀の潮州人」(2018年)

宣教師関連文書を研究に使用する場合、宣教師をはじめとする西洋人が当該地域または中国にたいしてどのようなイメージを持っていたのかをあらかじめ確認しておく必要がある。宣教師が潮州地区へ本格的に入りはじめたのは1850年代だったが、そのときかれらが潮州人にたいして抱いたイメージは、「中国の沿海部でもっとも野蛮でもっとも無法」という、きわめて悪いものだった。そのようなイメージが形成されたもっとも大きな原因は、ちょうどこのころ各村落の自立性が高まり、地域全体が一種の無政府状態に陥っていたためだと思われる。

ところが、福建南部に位置する廈門について、同じ時期のイメージを調べてみると非常に良好で、ほとんど潮州の対極に位置する。廈門は地理的に潮州に近にもかかわらず、なぜこのような大きな差が現れるのか、まったく予期しない結果となった。廈門の場合も、潮州とは異なる社会状況がその背景となっていたことが推測されるが、いずれにせよ、地域間の差異についてさらに検討すべき課題が生じたことになる。

なお、潮州、廈門などにかんするこのようなイメージ調査は先行研究が存在せず、地域史研究に新たな糸口を提供できたと思われる。

b. 蒲豊彦「義和団事件前夜のキリスト教会」(2016年)

近代東アジア史における日清戦争(1894-95)の衝撃の大きさは、あらためて言うまでもない。中国においては、こののちさまざまな改革が加速するものの、民間では排外主義が高まり、まもなく義和団事件(1900)にいたる。ところが、日清戦争後のこの時期には、他方でキリスト教も急激に発展しはじめる。この現象に一部の研究者が気付いていたが、本格的に調査されることはなかった。本論文では、アメリカンボードとアメリカン・バプティストというふたつのミッションの年次報告をおもな素材としつつ、中国東北部、山東周辺、福建、広東、内陸部の湖北など、中国の状況を広く検討した。

その結果、各地で同様に信者が増え、キリスト教の活動が盛んになっていることを確認できた。さらに重要なこととして、この時期はキリスト教以外にも、東北では在理會、山東では大刀會、福建の齋會、広東の大峰會などの組織が民間で活性化している。このうちたとえば大刀會は山東で蔓延していた盗賊に、また大峰會は広東東部で流行していたペストに対処するためのものであり、つまりこれらはいずれも自立、自衛、互助をめざす民間の組織だった。すなわち、日清戦争に敗北したことをおもなきっかけとして生じた全国的な社会不安のなかで、各地の具体的な

状況に応じて別個の組織的潮流が現れ、キリスト教の発展もその一部なのである。それは、入信の目的がけっして信仰ではなく、おおむね世俗的な利益を得るためであったことからわかる。そして、キリスト教およびそれ以外の組織がとりわけ発展した山東で、両者が衝突し、義和団事件が発生することとなった。

本論文では、義和団事件の発生にかかわる重要な要素を指摘するとともに、地域史および中国近代史を研究するうえでキリスト教関連文書の有効性を、あらためて示すことができた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 37件)

土肥歩、ミッション史料からみる珠江デルタ流域の地域社会、東洋史研究、査読有、75(3)、2016、pp.137-168

蒲豊彦、義和団事件前夜のキリスト教会、東洋史研究、査読有、75(2)、2016、pp.380-414

石川照子、中華民国の社会とキリスト教 - 一九一二年から一九四九年まで -、キリスト教文化、査読無、5、2015、pp.42-53

倉田明子、十九世紀前中期のキリスト教伝道と中国の近代化、キリスト教文化、査読無、5、2015、pp.16-28

佐藤仁史、近代江南的漁民与信仰 以天主教为中心、近代中国基督教史研究集刊、査読有、10、2015、pp.107-118

戸部健、YMCA アーカイヴズ(ミネソタ大学)所蔵中国 YMCA 関係史料について 天津関係史料を中心に、史学、査読無、84:1-4、2015、pp.251-264

山本真、20世紀前半、福建省福州、興化地区から東南アジアへの移民とその社会的背景 キリスト教徒の活動に着目して、21世紀東アジア社会学、査読有、6、2014、pp.31-47

蒲豊彦、中国の地域研究とキリスト教、歴史評論、査読有、765、2014、pp.6-16

[学会発表](計 53件)

土肥歩、民国初年の「偶像破壊」をめぐって: 鍾栄光と陳景華、歴史学会第42回総会・大会、2017

石川照子、Conflict and Competition between Internationalism, Nationalism and Gender: Exchange between the Japanese and

Chinese Young Women's Christian Associations during the Second Sino-Japanese War、アメリカアジア学会、2015

倉田明子、通商口岸對於太平天国評價的變遷、太平天国失敗 150 周年學術研討會、2014

佐藤仁史、近代江南的漁民与信仰 以天主教徒和進香組織為中心、香港浸會大學、2014

〔図書〕(計 46 件)

蒲豊彦、風響社、潮州人 華人移民のエスニシティと文化をめぐる歴史人類学(宣教師が見た一九世紀の潮州人)、2018、420(59-86)

蒲豊彦、中華圏キリスト教地域史研究会、報告書 国際シンポジウム「中国のキリスト教と地域社会」、2018、150

土肥歩、東京大学出版会、華南中国の近代とキリスト教、2017、273

石川照子・桐藤薫・倉田明子・松谷曄介・渡辺祐子、かんよう出版、はじめての中国キリスト教史、2016、234

佐藤仁史、平凡社、近代中国 その表象と現実 女性・戦争・民俗文化(近現代中国における民間信仰と「迷信」の表象 江南地方の場合)、2016、344(314-340)

山本真、創土社、近現代中国における社会と国家 福建省での革命、行政の制度化、戦時動員、2016、461

戸部健、汲古書院、近代天津の「社会教育」教育と宣伝のあいだ、2015、368

倉田明子、東京大学出版会、中国近代開港場とキリスト教、2014、372

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：

番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

蒲豊彦(KABA, Toyohiko)  
京都橘大学・国際英語学部・教授  
研究者番号：30233919

### (2) 研究分担者

土肥歩(Doi, Ayumu)  
明治学院大学・キリスト教研究所・研究員  
研究者番号：10731870

山本真(YAMAMOTO, Sin)  
筑波大学・人文社会系・准教授  
研究者番号：20316681

戸部健(TOBE, Ken)  
静岡大学・人文社会科学部・教授  
研究者番号：20515407

倉田明子(KURATA, Akiko)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授  
研究者番号：20636211

石川照子(ISIKAWA, Teruko)  
大妻女子大学・比較文化学部・教授  
研究者番号：50316907

佐藤仁史(SATO, Yosihumi)  
一橋大学・大学院社会学研究科・教授  
研究者番号：60335156

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

魏郁欣(WEI, Yuhsin)